

第 57 回シェイクスピア学会研究発表ならびにセミナーメンバー募集要項

第 57 回シェイクスピア学会は、2018 年 10 月 13 日（土）、14 日（日）の 2 日間にわたり、津田塾大学小平キャンパスにおいて開催されます。つきましては、下記により研究発表ならびにセミナーメンバーを募集いたします。応募規定をご覧のうえ、奮ってご応募ください。

研究発表

学会 1 日目に行われる研究発表を募集します。

【応募要項】（締め切り日にご注意ください。応募方法は E メールです。）

1. 一般研究とし、テーマを問いません。ただし、未発表のものに限ります。
2. 応募者は研究発表概略（和文 2,000～4,000 字、または英文 800～1,500 語）を、WORD またはリッチテキスト形式のファイル（A4 用紙縦設定の横書）にして E メールに添付してください。
3. 学会プログラム資料原稿用に、研究発表要旨（和文 400 字、または英文 150 語以内）を、WORD またはリッチテキスト形式のファイル（A4 用紙縦設定の横書）にして E メールに添付してください。
4. 簡単な経歴書を、WORD またはリッチテキスト形式のファイル（A4 用紙縦設定の横書）にして E メールに添付してください。
5. 応募者の氏名、所属・肩書き、連絡先住所・電話番号・電子メールアドレスを E メール本文に明記し、上記 2.「発表概略」3.「要旨」4.「経歴書」の計 3 点のファイルを添付して、日本シェイクスピア協会（学会担当）宛に送信してください。なお、以上 2～4 の書類はそれぞれ独立のファイルとして添付してください。
6. 応募 Eメールの送信先を日本シェイクスピア協会（学会担当）ssj-conference@nifty.com とし、件名に「研究発表応募」と明記してください。
7. 応募原稿ファイルは返却いたしませんのでコピーをお残してください。
8. 締め切りは**2018年6月15日（金）正午**です。
9. 審査結果は7月中旬に応募者あてに通知いたします。
10. 日本シェイクスピア協会会員であること（＝当該年度の会費納入者）が応募の資格です。

セミナー

学会 2 日目に以下の 3 つのセミナーを企画しました。

【応募要項】（締め切り日にご注意下さい。応募方法は E メールです。）

1. 下記セミナーのうち 1 つのみ応募できます（応募は会員に限ります）。
2. ご希望のセミナーテーマを明記のうえ、ご発言の「主旨」を、日本語 200 字以内（または英語 100～150 語）にまとめ、WORD またはリッチテキスト形式のファイル（A4 用紙縦設定の横書）にして E メールに添付してください。また「氏名・所属・肩書き・連絡先住所・電話番号・E メールアドレス」を E メール本文に明記してください。

3. 応募 E メールを送信先を日本シェイクスピア協会（学会担当）ss-j-conference@nifty.comとし、件名に「セミナーメンバー応募」と明記してください。
4. 応募締切は**2018年5月7日(月)正午**です。
5. 各セミナーとも、コーディネイターと協議のうえ、メンバーの数を限ることがあります（コーディネイターは会員外のゲストを1名入れることができます）
6. 応募の採否については6月下旬までに本人宛に通知します。
7. セミナーメンバーに決定した方は、研究発表に重ねて応募することはできませんので、ご注意ください。

各セミナーの ①コーディネイター、②テーマ、③指針は次の通りです。

《セミナー1》

- ① 高田 茂樹氏（金沢大学教授）
- ② 初期シェイクスピアとその周辺
- ③ 劇作家としてのシェイクスピアの初期の活動については、判然としないことが多い。1585年から1592年までのいわゆる Lost Years の出来事だけでなく、それ以降、1594年にロンドンの劇場が再開されて、彼が宮内大臣一座に参加するまでの経緯も十分解明されているとは言い難い。

以前からシェイクスピアの関与が議論されていた *Edward the Third* (c. 1590) が近年シェイクスピアのキャンノンに加えられるなど、従来の枠組みでは捉えられない情勢も出てきており、そういった現状に即した新たなアプローチが求められている。

こういった変化する条件の下で、シェイクスピアはどのような形で演劇に関わっていったのか、その際の劇団の状況や、他の劇作家との競合や影響あるいは共作などの関係は実際にはどのようなものだったのか、といった問題を、時代の社会状況やイングランドの歴史に取材した芝居の流行の意味なども踏まえて考察し、そういった関わりを通して、シェイクスピアがいかに劇作家としての自らを確立していくのか、特に初期の英国史劇を中心に、多角的な視点で探っていきたい。

《セミナー2》

- ① 中野 春夫氏（学習院大学教授）
- ② シェイクスピア劇と同時代の娯楽・風俗文化
- ③ シェイクスピアの演劇テキストには小唄 (song) の歌詞やダンス (jig) のト書き、大道芸、フェンシング試合（決闘）の場面が組み込まれ、台詞において熊いじめや売春産業、飲食業の描写が具体的に行われています。熊いじめや大道芸興行あるいは売春産業はどのような形態で行われ、同時代の芝居はその特性を舞台上でどう表現していたのでしょうか？小唄やダンス、楽器演奏の存在は「大衆役者」演劇のミュージカル的なエンターテインメント性を物語っていますが、これらの要素は歌謡・舞踏文化のどこからどう採り入れられていたのでしょうか？本セミナーは今一度

娯楽産業のコンテンツという演劇本来の社会的コンテクストに立ち戻り、シェイクスピア劇の特性を同時代の娯楽・風俗との影響関係から分析したいと思います。娯楽・風俗文化と関わるものであれば何でも結構ですが、劇作品の主要な対象は議論の拡散を避けるためシェイクスピア劇とさせていただくことをご承知ください。

《セミナー3》

- ① 森 祐希子氏（東京農工大学教授）
- ② 映画で考えるシェイクスピアの多様性
- ③ 映画誕生から120年を過ぎ、映画自体が変化変遷する中で、映画と演劇の出会いも変容し、様々なシェイクスピア映画がつくられてきました。「ナショナル・シアター・ライブ」のような舞台の映像上映が盛んになるなど、近年「シェイクスピア映画」の定義にも変化が見えます。

このセミナーは、多様なシェイクスピア映画に対して多様なアプローチを試みることで、新たな作品解釈の可能性を見出すことを目指します。従来行われてきた映画史、監督・俳優論、アダプテーション理論等々による考察に加え、新たな視点や手法を歓迎いたします。扱う作品や研究手法は限定しませんが、映画を考えることがシェイクスピアの作品理解にどう資するのか、シェイクスピア映画の定義とは何かという問いを共通の問題点としたいと思います。

本セミナーは従来のシェイクスピア・ワークショップに代わるものとして、大学院生（修士課程を含む）及び若手研究者の方々の参加を特にお待ちしております。